

具体的な施策として(抜粋)・・・町有宿泊施設へのWi-Fi設置を推進する。
 学校教育でのICT教育の充実を図る。
 高齢者を対象に各地域でパソコン講座を開催するなど、学習機会の充実、情報の利用促進を図る。



(3) 住環境の整備および定住・移住対策

◆基本方針

町営住宅については、築年数や老朽化の状態を確認の上、的確な改修事業を計画的に進める。また、耐用年限(30年)を経過した町営住宅は順次「地域活性化住宅」に移行させ、町の裁量による管理運営を行う。八峰町住まいづくり応援事業を継続し、快適で魅力的な住環境の創出を促進する。

定住・移住を促進するため、移住コンシェルジュを育成するとともに、民間と町の連携により、移住相談窓口の設置を検討する。

既存公園施設の充実と維持管理に努めるとともに、小公園や緑地の整備を図る。



◆施策の成果目標

指標名	R元年実績	R7年目標
町営住宅の管理	93戸	40戸
地域活性化住宅の管理	—	53戸
若者・子育て支援住宅	2棟2世帯	2棟2世帯
空き家利活用数	16戸	21戸
移住コンシェルジュ	0人	2人

(4) 上下水道等の整備

◆基本方針

水道水を安定的に供給するため安全な水源の確保を図り、浄水場の統廃合を検討しつつ老朽化した水道施設の整備を計画的に進める。現在管理している6箇所の排水処理施設を統廃合し、人口減少に対応しうる持続可能な下水道経営を目指す。

将来的に核となる処理施設においては、長寿命化を図るため経年による老朽化対策として主要機器の更新工事を進めるとともに計画的な施設整備を行う。

下水道加入に関する各種助成制度を周知しながら、下水道等加入率の向上を目指す。併せて下水道区域外での合併処理浄化槽の普及を図る。



◆施策の成果目標

指標名	R元年実績	R7年目標
公共下水道	72.7%	75.0%
農業集落排水	57.4%	65.0%
漁業集落排水	67.1%	70.0%
下水道(計)	67.5%	73.0%
合併処理浄化槽	23.4%	25.0%

具体的な施策として(抜粋)・・・公共下水道等の対象区域外について、補助金制度を継続し、浄化槽の普及を促進する。
 各種助成制度を周知し、下水道等の加入率の向上を図る。

PART 2

第2次八峰町総合振興計画 後期基本計画目標



～快適で安全な暮らしを支えるまちづくり～

第2次八峰町総合振興計画は、平成28年度から令和7年度までの10年間の計画期間としており、このたび令和3年度からの後期基本計画を策定しました。

計画には、6つの基本目標が設定されており、これらを実現することで町の将来像「白神の自然と人と創るやすらぎのまち」を目指します。ここでは前期基本計画の実績と比較しながら、後期基本計画の目標について、紹介していきます。今回は、「快適で安全な暮らしを支えるまちづくり」です。

6つの基本目標

- ①豊かな自然と共生するまちづくり
- ②快適で安全な暮らしを支えるまちづくり
- ③未来につながる活力ある産業づくり
- ④安心して健やかに暮らせるやすらぎのまちづくり
- ⑤彩り豊かな文化とふるさとをささえる人づくり
- ⑥町民とつくるパートナーシップのまちづくり

基本目標	施策
快適で安全な暮らしを支えるまちづくり	(1) 道路・交通体系の整備 (2) 情報・通信ネットワークの整備・活用 (3) 住環境の整備および定住・移住対策 (4) 上下水道の整備 (5) 環境衛生の充実 (6) 消防・救急体制の充実 (7) 防災体制の充実 (8) 交通安全・防犯の推進 (9) 雪対策の充実

(1) 道路・交通体系の整備

◆基本方針

安全で利便性の高い生活環境を確保するため、幹線道路および生活関連道路の計画的な整備を推進するとともに、橋梁等の維持管理・交通安全施設の充実および歩道整備の促進に努める。

JR 五能線の利便性の向上とバス路線の確保に努める。また、公共交通空白地有償運送の確実な運行を実施するとともに、交通弱者の移動手段の確保を図る。超高齢社会の到来を見据えた、新たな地域交通システムの構築を検討する。



◆施策の成果目標

指標名	R元年実績	R7年目標
橋梁長寿命化修繕計画	18橋梁補修済み	25橋梁補修済み
地域公共交通	JR五能線、秋北バス(岩館線・大久保岱線)、公共交通空白地有償運送	JR五能線、秋北バス(岩館線)、新たな公共交通

(2) 情報・通信ネットワークの整備・活用

◆基本方針

高度化し続ける情報・通信技術に対応できるよう、通信環境や情報基盤の整備とともに、情報化に対応できる人材の育成に努める。

◆施策の成果目標

指標名	R元年実績	R7年目標
公共無線LAN(Wi-Fiスポット)	15カ所	21カ所